

学ぶことから始まる信仰

主任司祭 吉池 好高

今月号から、「カトリック教会のカテキズム」に沿って、カトリック信者としてのわたしたちの信仰を振り返ってみることにしましょう。カトリック教会のカテキズムは三部からなっています。

第一部では、信仰宣言に表明されているキリスト教の信仰内容が逐次的に説明されています。この部分を学ぶことによって、キリスト教の信者たちがどのようなことを信じているかが分かります。第二部では、キリスト教の信仰に従って生きるための道が説かれています。つまり、キリスト教の信仰に基づく倫理的な教えが述べられています。第三部は、キリスト者として生きる信仰生活を支える秘跡と祈りについて説明しています。

キリスト教の信仰を生きるということは、キリスト教の教会に伝えられている信仰内容を受け入れ、それに基づいて生きるということです。そのためには、教会に伝えられているキリスト教の信仰とはどのようなものであるかを知らなければなりません。「カトリック教会のカテキズム」はそのような必要に応えるために、キリスト教の信仰内容の要点を示しています。カトリック信者となって、キリスト教の信仰を自分のもとにするためには、カテキズムに示されているキリスト教の信仰内容を忍耐強く学んでゆく必要があるのです。ローマの教会への手紙の中で、使徒パウロは次のように述べています。「信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう」(ロマ10・14~15)。遣わされた人たちが宣べ伝えたことを聞いて、信じ、信じたその方を呼び求める。ここに、キリスト教の信仰の経路が示されています。

このような経路をたどって、キリスト教の信仰はわたしたちのもとに伝えられているのです。そのような信仰を受け入れ、その信仰が示す神を呼び求めることが、カトリック信者としてのわたしたちの信仰の姿です。送られてきたお中元の中身を確かめるようにして、わたしたちに贈られてきた信仰の中身を確かめましょう。